

---

# 東方傳々抄～Holy war at the fantasy end.

黑白

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

東方儻々抄 / Holy war at the fantasy

end .

### 【ZIPコード】

N7320P

### 【作者名】

黑白

### 【あらすじ】

自分自身への謎へと立ち向かう少年と、それを取り巻く幻想郷の物語……。

まず、手始めに。

星恋歌でもお話したように、**東方儂々抄**  
トウボウルウハクショウ

原作に関係するものではなく、黑白が妄想によつて生み出した一つの副産物です。

東方Project、及び上海アリス幻樂団様の作品には  
一切関係ありません。

また、あくまでも一次創作小説なので、原作から考へるとありえない展開や  
設定との矛盾点が生じる可能性もあります。  
また、黑白の文は酷いです。

以上の事が許せる方に推奨します……。

それでは……。  
マターリしていってね！

Prologue No.1 (前書き)

第一章 『序』

其れば

小さい頃の記憶。  
ぼんやりながら、ハツキリと。  
ぼやけているのに、鮮明に。

覚えている。

父さんは、自分を売ったのだ。

父さんは、自分に愛を注いでなどくれなかつた。

父さんは、自分を……

殺したのだ。

父さんは幼い自分に名前も付けず。自分に重労働をさせた。

一日の内、休憩は全部合わせて3時間。それ以外はずっと、肉体労働。

その時、齢8歳。

父さんは、自分を働かせて、武士と云つて身分に身を置きながら、

自分に労働させて、自分ばかり利益を得た。

俺は、アソツの…何なんだ。

憎い。

憎い。

憎い憎い憎い憎い憎い！！

それは憎悪。

身が震えるほど嫌悪感。

最低最悪最凶最猾。

……口ロロシテヤル。

あんな奴、何処が父親なんだ？

俺は偉い偉い殿様の所でずっと働いていた。

苦痛だ。

妬ましい。

妬ましい。

妬ましい妬ましい妬ましい妬ましい妬妬妬妬！

暖かい所で。

“正室”の子等と笑つて暮らす、あのクソヤロウが殺したいほど  
妬ましい！！

… ロロシテヤる

俺はアイツの為に働いてきた。  
自分がもう、どれだけ骨と皮だけだからも解らない。  
それでも、ただ黙つて……黙々と。

そんな時、アイツは。

その、俺が仕えていた偉い人と共に、

アイツは自分の利益のために、アイツはアイツはアイツはアイツは  
アイツは俺と偉い人が泊まつてた寺に夜遅く火矢を放つて燃やし  
た。  
俺じと。

寺に宿泊してるとき。人は、兵は少なかつた。  
だから、アイツは狙つた。

力のえしい奴らしかいなかつたんだ……。

誰も護れない。  
主人を護れない。

炎もかなりの勢いを付けてしまい、  
最早、寺の中からの脱出は不可能だつた。

そして、俺はその偉い人から人質に取られた。  
喉元には、小刀が当てられている。

その偉い人は、お前の親父が呼びかけに応えさえすれば開放する、  
といつてくれた。

でも、アイツは止らない。一直線に本堂へと向かつた。  
そして、アイツが扉を蹴飛ばした。

何年ぶりに見た、アイツの顔だろうか。

そんな事思う間もなく、  
……其処で、記憶が途切れた。

其処で、自分は首を刈られ死んだのだ。

昼下がりの午後。  
昼下がりの午後。

街は、下校する生徒が多く行き交う。

何故なら、今日は私立高校の終業式。  
終業式なのだ。

そんな中、やはり周囲と同じように下校する少年少女らグループが  
居た。

『黒澤円』  
『上原慎哉』  
『相場輝義』

9

二人は、中学からの同級生であり、そして親友であった。  
そして、……悪友だった。

『クロサワマドカ』  
『イズモアカネ』  
『出雲茜』  
『シノザキスバル』  
『篠崎昂』

この3人は、クラスの中でもかなり仲の良い、友人である。  
この5人は、いつも固まって、遊んでいた。

……女子陣の中では、出雲茜だけがこう……不思議つ娘と言つが、

何とも言えない子なのだが……悪い奴では無い。

そして、そんな5人の下校。

円「ねえ、明日から何しようか」

この5人の中で一番元気の良い円がその場の全員に明日の予定を提案しようとする。

それはそうだ、何しの明日からは夏休み。

全ての。 人類全ての学生の夢の一ヶ月。  
しかし……。

慎哉「馬鹿、まだ早えよ」

自分 もとい、青年はびしやりと其の言葉を否定した。  
少し棘があるが、其れはお互い気にしない。なにしろ、円は幼馴染だ。こんな事、今更気にしない。

輝義「おつ、うわらば……何か考えでも?」

悪友が俺を変な呼称で呼んで来る。 ロイツ……シバいたるうか。

慎哉「俺のことを“うわらば”と呼ぶんじゃない、何処の世紀末だ……しかもヤラれ役かよつ！？」

よし、正確な突っ込みだ。

昂「ねえねえ、何?何? 何かあるの?」

慎哉「いや? 流石に案を出すのはまだ早えだらつ、と思つてなあ」

一番田に元氣の良い、昂に受け答える。

其の言葉を発した瞬間、円が物凄い勢いで迫ってきた。

円「甘ひつひついいい……！」 塩より甘い……」

慎哉「塩は甘くねえよ……？」

そんなツッコマは田も暮れずに円は迫り続ける。

円「いい！？ 夏休みってのはねえ…… 長いようで短い、夢のような一ヶ月なのよ……」

円「気が付いたら“は、もうあと二日で終わつじやん……南無二”なあああ～んて事も！ あり得るのよお～！？」

慎哉「あ～つ！ 五月蠅い！ つるさんこそ、つるさんこそセツ！ 今まで言つなら今日はトコトコ計画練り上げだ……！」

茜「意外と簡単に折れるのね」

そう言い、慎哉は近くのファミレスを指差した。

ファミレス……『サイテリア』。

慎哉「つ……疲れたぜ……」

帰路に着く5人。

ファミレスを出た頃には、既に時刻は7時を周っていた。

一人。

一人、また一人。

結局、残つたのは家が近い慎哉と円だけ。

二人は、同じ方向に歩いている。

円「『苦勞様』

コイツとも、ある意味は腐れ縁だ。  
幼い頃から、良く遊んで。  
数々の思い出を作ってきた。

コイツは、勝氣で、男勝りだけれども、何かと女の子らしい。  
料理が得意だつたり、……実はピアノとか弾けたり。  
何かと女性的な所があるんだな……。

慎哉「ふう……で？ 明日は何処だっけ？ 初日」「  
円「明日、初日は海に行くの。覚えててよ……」

夜。

二人は蒼い街灯に照らされる。  
何処かで、蛾がバチリ、と光に燃えた音がした。

慎哉「そうだつたけ？……うし、それじゃあ、今日は早く寝なき  
やな！」

慎哉は円の方を見ながらにこりと笑みを作つた。  
何だかんだいって、反発し合つっていても仲は良い。高校生になつて  
も。

円「うん！」

円も、飛びつきりの笑顔を作つて見せた。

コイツは……コイツも、俺の親友だ。

円「それじゃね～

慎哉「おう

街の外れ。

道を分ける。

円は家の並々の中へ。

慎哉は、山へと。

慎哉の家は、神社なのだ。  
由緒正しいとか、何とか。

ああ、そうだ。

先程から語つてる友人の記憶だつたり、過去の思い出。  
全部、俺の頭の中に入つてる“情報”からだ。

なぜなら

俺、上原慎哉は“一部の記憶が無い”から。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7320p/>

東方儂々抄～Holy war at the fantasy end.

2010年12月30日23時07分発行